

2018年9月11日

BIMデータと電子商取引を連動させるしくみづくりを目指し、 「BIM-EC コンソーシアム」を発足

【設立背景】

BIM (Building Information Modeling) は、日本においても企画、設計、施工の分野での活用が進んでおります。一方、本来BIMは「正確な数量算出」「属性情報の保持」といったデータベースとしての特徴を持ち、積算や維持管理 (FM) などでの強みを最大限発揮できますが、これらの分野においては十分に活用されていないのが現状です。

日本の建築業界はデジタル化が遅れていると言われますが、その要因として、建築物は個別性が高くデータ化が積極的に推進されてこなかったことや、設計、施工、管理といった各分野で情報の引継ぎがされにくいことなどが挙げられます。これは個々の企業組織だけでなく、業界全体の統一した情報共有の活性化がされていないということでもあり、これは結果として、コスト負担する発注者に対し十分な情報が与えられないという問題につながります。

【BIM-EC コンソーシアムの目指すもの】

本コンソーシアムは、建築の川上の分野である「設計」「受発注」に着目し、それらをBIMデータで連動させるしくみ作りを目的として発足しました。BIMとEC（電子商取引）の特徴を掛け合わせることで、設計、積算、入札、発注までの一連業務が、BIMデータを用いてワンストップで行われ、スピーディーな取引、コストの圧縮を実現し関係企業の生産性を最大化するとともに、発注者に対して情報が透明化されることが期待されます。

業界関係者間でBIMデータの有効活用について議論を行ない、具体的な実証実験を促し、受発注分野での活用を目指すきっかけとなる場として、活動を行なってまいります。

【BIM-EC コンソーシアムの概要】

- ・ 設立日：2018年9月5日（水）
- ・ 代表幹事：関戸博高（スターツコーポレーション株式会社）
- ・ 参加会員：アイリスオーヤマ株式会社、伊藤忠商事株式会社、伊藤忠建材株式会社、応用地質株式会社、岡崎信用金庫、スターツコーポレーション株式会社、大建工業株式会社、TOTO株式会社、株式会社日建設計、福井コンピュータアーキテクト株式会社、株式会社フクダ・アンド・パートナーズ、YKK AP株式会社（50音順）

【BIM-ECの実現により期待されるメリット】

- ・ スピーディーな取引の実現
- ・ 業務コストの圧縮
- ・ 業務のフロントローディングの加速
- ・ 発注者に対する情報の透明化

【対象分野】

- BIMによる
- ・ 積算
 - ・ 発注、納品
 - ・ 維持管理への活用

【活動・研究内容】

- ・ 建材におけるEC
- ・ BIMとECの連携技術
- ・ 運用ルール
- ・ 実証実験

本件についてのお問合せ

コンソーシアム事務局：スターツコーポレーション株式会社 新規事業推進室
TEL：03-6860-3336 FAX：03-6684-7320